

山椒は小粒でも…

Vol.22
鳥羽駅の名物
駅ボラ（ボランティアガイド）



鳥羽駅の名物である駅ボラは、ゴールデンウィークとお盆に、近鉄鳥羽駅の改札口を出たところと駅階段を下りた送迎バス前に開設されます。

新人ガイドに混じって研修に参加しなければなりません。駅ボラをするにあたっては、約3時間の事前の研修を受けることが必須なのです。

駅を利用する観光客に道案内や観光のアドバイス。身体の不自由な方や困っているかたへのお手伝い。車いす、ベビーカーの貸し出し手続きなどをします。

研修当日は電動車いすの女性が四日市市から参加されており、JR側の階段は男性4人が車いすごと持ち上げ、下まで降ろすことにより、エレベーターの代わりをしていたできました。

- ①「⑤が挙げられます。
- ②「真つす（行つて右）」と、ただ道順を言うだけでなく、「あそこに見える階段を降りる」、「あの建物の右から3番目」とか、できるだけその目印となるものが見えるところまで同行するのが望ましいこと。
- ③コインロッカーも伊勢神宮も飲食店も、案内したとしてもそこはすでに空きがないと



エレベーターのないJR側の階段は4人の人力でカバー

か、混雑で入れないかもしれない、ということを念頭に置いて案内することも必要だということ。

④そしてCANバスの利用が歩く距離が短くてすみ案内便利だということ。

⑤ひだまり前の臨時駐車場から駅前と遊覧船で結ぶパーク&シップライドが魅力的だということ。

どれをとっても目からウロコの研修でした。

今年のゴールデンウィークの駅ボラは、4月28日、5月3日、4日、5日の午前9時30分〜午後3時30分に開設されます。私は3日と4日ともに午前中にそこに行きます。



鳥羽駅には出口がいっぱいあります



Vol.180

教育委員会生涯学習課 ☎ 1268

おすすめ

「おすすめ」という言葉を、最近あまり聞かなくなった気がします。「お祝いのお菓子をもらったので、これ、おすすめです」「親戚からワカメをもらったので、おすすめします」など。

「おすすめ」はもらったものを他の人に分け与えるという意味で、漢字では「お裾分け」と書きます。「お裾分け」の「すそ」とは、着物の裾のことです。自分の身体の中から離れて、汚れやすい場所にある生地のことなので「つまらないもの」という意味になるため、目上の人に使うのは失礼にあたります。

そこで人からいただいた幸せを分けるという意味で「お裾分け」という表現もあります。この言葉は何かをくれた人に

対しても、それを配る相手に対しても失礼になりません。

「お裾分け」は、柔らかな和の心が息づく美しい日本の言葉、日本人が大切にしてきた心のよりに思っています。

また、日本人は、出合い作業や祭りの協力、葬儀における助け合いなど、隣近所と「遠くの親戚より近くの他人」という人間関係を築き上げてきました。東日本大震災での日本人の行動に世界の人が驚き、「絆」という言葉も見直されました。

しかし、隣近所との関わりは時として不自由な、我慢を強いられることも少なくありません。子どもが少なくなり、近所で物を分ける習慣や関わり合う機会も減っています。

地域の関係が希薄になりつつある今の社会ですが、人と人とのつながりなど、昔を引き継いで大切にしなければならぬことも多いと思われれます。「少子化の問題」は、伝えるべき相手がいないということにつながる問題です。文化・社会は長い時間をかけて気が付かない間に変化していきます。「お裾分け」という言葉から垣間見ることが出来る日本人が大切にしてきた文化を守っていくことも意識していきたいですね。